



UD フォントの例
(イワタ UD フォントの明朝体)

UD フォントで作成した教室プログラムの案内チラシ

T O P I C

ユニバーサルデザインフォントを導入 日産スタジアム

日産スタジアムおよび新横浜公園では、2010年10月よりユニバーサルデザインフォント（以下、UDフォント）の本格導入を開始した。これは、新横浜公園の指定管理者である横浜市体育協会・横浜マリノス・管理JV共同事業体が、指定管理者の社会貢献事業の一環として取り組むもので、今後は事業案内やポスター、イベントチラシ（上部写真参照）などさまざまな広報物に、この読みやすい文字（書体）を使用していく。

UDフォントとは、視認性や判読性が高く、ユニバーサルデザインの思想に基づいた文字（書体）のことです。日産スタジアムでは視覚障害者や高齢による弱視などの利用者に配慮し、少しでも見やすい文字を使用することを目的に今回の導入に至った。なお、横浜市内の公共施設へ配布している2010スタジアムカレンダーにおいて、いち早くUDフォントを導入していた。

同施設が導入するのは、UDフォントの先駆けでもある「イワタUDフォント」。年齢や障害の有無に関係なく多くの人が見やすく、読みや

すくなるようユニバーサルデザイン視点から作られたフォントである。基本的には画線などをシンプル化したものであり、文字上の空きを大きくするなど、読みやすさの向上と誤読を防ぐためのさまざまなデザイン上の工夫が施されている。イワタUDフォントは、以下の四つの観点において開発されたことが特徴である。

①視認性：文字一つひとつの構成要素を視認しやすくする

②判読性：誤読しにくく、他の文字との判別をわかりやすくする

③デザイン性：シンプルさ、美しさ、整理、整合性を持つ

④可読性：文字列としての単語・文章の読みやすさ

現在では、他のフォントメーカーでもUDフォントを開発しており、地方自治体や公共交通機関、一部の大企業などにも採用の動きが拡大しているという。不特定多数が利用する公共スポーツ施設において、誰もが読みやすい情報の発信を目的とした今回の日産スタジアムのような取り組みが、今後さらに広がっていくだろう。